結成60周年を機に更なる飛躍を！

巻頭言

金属労協（JCM）事務局長
梅　田　利　也

1964年。

わが国は正式にＩＭＦ（国際通貨基金）８条国に移行するとともに、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）に正式加盟するなど、戦後19年を経て、名実ともに先進国の仲間入りを果たした年となりました。

時を同じくして、労働界としても国際連帯の中で賃金・労働条件の向上を図ることの必要性があることから、1964年５月16日、東京の日本青年館において、金属産業で働く47万人がナショナルセンターの枠を超えて結集し、ＩＭＦ-ＪＣ（国際金属労連日本協議会、現在の金属労協の前身）が結成されました。

久野 治氏（元ＩＭＦ-ＪＣ事務局次長）によって記された著「さよならＩＭＦ・ＪＣ ～創生期の人々～」によれば、「東京青山の神宮外苑の森は深いみどりに包まれ青葉の若い芽はまぶしく輝き、そして五月晴れの空はまさに突き抜けるように晴れわたっていた（原文ママ）」との記載があり、結成にあたっての溢れんばかりの熱気が伝わってきます。

結成大会では「われわれの日本協議会が日本の労働運動の中心的な団結体として確固たる地歩を築き、日本の労働運動の発展に全力を挙げて努力することを国内外に宣言します。」という結成大会宣言（一部抜粋）が確認されています。

2012年６月、グローバル化の負の側面に対し、より強固な国際産業別労働組合組織を構築すべく、金属、化学・エネルギー、繊維の３組織が統合し、140カ国5,000万人の規模となるインダストリオール・グローバルユニオンが結成されました。

この動きに連動し、2012年９月の第51回定期大会において、組織の名称をこれまでのＩＭＦ-ＪＣからＪＣＭへと変更することになりますが、インダストリオール・グローバルユニオン加盟組合の中ではアジア最大かつ世界で２番目に大きい位置づけにある私たちの役割は大変大きいものがあります。

その金属労協は2024年5月に結成60周年を迎えることができました。

この間、金属労協は、国際労働運動、金属産業にふさわしい労働条件・処遇の確立、政策・制度課題の改善、次代を担う労働組合役員の育成等に取り組んでまいりましたが、関係各位の多大なご尽力により、その役割を果たすことができたものと考えます。

ものづくりの地盤沈下が叫ばれています。

しかしながらグローバルな視点で見ても、わが国のGDPに占める製造業の位置付けは大きく、金属産業がその中心であることは間違いありません。今後も金属産業にはわが国を牽引していくことが期待されているものと考えており、私たちは金属産業の発展に資する労働運動を展開していかなければなりません。

本号は金属労協結成60周年を迎えるにあたり、50周年からの10年間に焦点をあて、60周年記念特集号として作成させていただきました。

結成60周年という節目の年をさらなる飛躍へと繋げるべく、インダストリオールの仲間との連携を深めるとともに、５産別の強固な連帯により、金属産業で働く仲間の幸せを求め、力強い活動を推進してまいります。

上／ＩＭＦ-ＪＣ（国際金属労連日本協議会）が結成
右／久野 治氏（元ＩＭＦ-ＪＣ事務局次長）著「さよならＩＭＦ・ＪＣ ～創生期の人々～」